

＜学校経営方針の重点＞（学校関係者評価）

1 学力の向上

2 規範意識と社会性の向上

3 豊かな心と健康な体の育成

4 保護者・地域・七小との連携

| 項目 | 経営目標 | 本年度の重点 | 具体的な方策 | 評価 | 分析結果 | 改善策 | 学校関係者評価記入欄 | | 学校の見解と今後の方向性 |
|-------|----------------------|-------------------------|---|----|---|---|------------|---|---|
| | | | | | | | 評価 | コメント | |
| 学力の向上 | 基礎・基本を確実に身につかせる指導の充実 | 生徒一人一人の個に応じた指導を適切に推進する。 | 基礎・基本の定着、課題解決力の向上を目指し、授業と家庭学習との関連を踏まえながら生徒の学習を保障する。また、特別支援教室・取り出し授業等により支援を必要とする生徒が安心して学べるよう適切に支援する。 | A | めあてや見通し、評価規準を明示して生徒個々に応じた学びの意義や学び方を意識させることができた。 | 新型コロナ感染による休校等がなかったことで学習の保障に向けて授業改善を進められたが、オンライン授業の充実に向けて準備を進めていく。 | A | 学習意欲が高まれば、オンライン授業にも対応できる/緊急事態宣言が発令された中でも休校にならず授業が受けられたことは良かった/安心して授業が受けられる環境(教室内、換気、大型空気清浄機設置等)が整っていて安心/少人数クラスだからこそできる個別目標設定や個別指導の充実を今後も願う/数学が全国・都より高いレベルと報告を聞いた。小学校との連携でレベルを上げている。研究授業の成果である/オンライン授業の前提となるPC・タブレット端末の配布も終了し、その運用方法の整備に取り掛かっている。ぜひ図書室の資料を併用しながらその効果を高めてほしい。 | 今年度は、休校・学級閉鎖がなかったために学習の遅れは発生しなかったが、引き続きコロナに対応できる学習環境を整えながらオンラインも準備していく。 |
| | | | 学習・図書館支援員による支援や学習教室(ステップアップ)、放課後補習教室(スタディアシスト)の利用で学習習慣や読書習慣を身に付けさせる。 | A | 支援員の具体的なアドバイスが学習意欲向上へつながっている。 | テスト前や長期休業中の学習教室に毎回30名前後(全校生徒の約70%)参加している。継続したい。 | A | 支援体制は、生徒の学習意欲の向上につながっている/試験前や夏季休業のステップアップ教室の学習は生徒一人一人の意欲が感じられる。特に夏季休業の10日間もの開校は先生方や支援員さんに感謝/学力アップへの取組、未来へ向けた読書の楽しさを伝えることの充実を願う/参加人数が多いことは評価にあたる/学びたい意識を引き出しているし、続けてほしい/学習のばらつきを最小限に抑える取り組みが素晴らしい。参加者の多さにも成果を感じる。 | 支援員さんによる手厚い学習支援は、本校の個別最適な学習にとって重要であり、引き続き人材の確保を図りながら特別支援にも配慮する。 |
| | | | 一人一台配布のタブレットを活用し個に応じた指導を工夫して学習意欲を高める。 | A | 全般にわたりタブレットを効果的に活用している。 | ノートとタブレット両者を効果的に使い分ける工夫をさらに進めていく。 | A | タブレットを有効に活用すれば学力の向上になる/タブレット活用の授業、オンラインでの学活等今後もっと定着してくれればよい/今はタブレットの使用を増やす時だが、効果が低ければ減らすPDCAを回せるとよい/学習用端末のID、PWなどのトラブルがないように適切な管理運用をお願いしたい/授業参観の時みんな楽しそうだし、積極的に発言していた/これからの効率的な運用が待たれる。 | 端末の機器トラブルを避けるべく情報担当を中心に適切な管理を進めるようにする。また適切な使用方法も生徒に指導する。 |

| | | | | | | | | | |
|--------------|--------------------------|---|--|---|--|---|---|--|---|
| 規範意識と社会性の向上 | 規範意識と社会性をはぐくむ指導の充実 | 基本的な生活習慣の確立を目指し、安全安心な学校生活を送りながら望ましい勤労観・職業観の育成を図る。 ※ <u>実践力</u> …最後までやり抜く力、社会に参画する力、仲間と協働する力等 | 薬物乱用防止教室、SNSの使い方、交通事故防止等の安全指導を通して、自ら危機を回避する能力を身に付けさせる。 | A | 年間計画に位置付けて計画的に進めている。 | 毎月1回の安全指導のさらなる充実を目指し、SNS等の指導を日常的に行うようにする。 | A | 生徒の危機回避能力を引き続き身に付ける指導をお願いする/薬物乱用防止やSNSの使い方や現代社会に必要なセーフティ教室は引き続き実施したい/年に一度は小中合同セーフティ教室もよい/薬物、SNS、事故は本人の一生への危機管理であり、若者の逮捕者も増えている。 <u>加害者・被害者にならない情報も伝えてほしい/薬物・SNSのことを継続して学ぶことは大切/SNSが生徒の間でどのように使われているか見えにくい。そのような中で積極的に学校側が指導に当たってくれる所は多くない。</u> | 今年度は自転車安全教室の他にスクエアドストリートによる交通安全指導も実施でき、反復指導ができた。 |
| | | | 総合的な学習の時間での探究学習のまとめを発表すること等で <u>課題解決力</u> を身に付けさせる。 | A | 教員は意識的に課題解決力を身に付けさせている。 | 各教科を超えた学習の基盤となる力であり、教科間の連携を深める。 | A | 総合学習を通して更に課題解決力の向上をお願いする/図書室やネットで調べた内容を発表するだけでなく掲示してあるのがよい。(川越遠足の)写真コンテストは良い企画/今後とも発表力、コミュニケーション力の強化のため、結果発表など実施してほしい/発表の場は必要、公開でできたらさらにより/コロナ禍の影響があり、総合学習発表会に伺っていないが、その取組は変わらず行われていることがすばらしい。 | 昨年度は感染防止により実施できなかった保護者参観を今年度再開する予定である。 |
| | | | キャリアパスポートを活用して職場体験(中止)等の進路学習での学びをまとめたり、振り返ったりすることで <u>実践力</u> を身に付けさせる。 | C | 今年度も進路学習の中心となる職場体験が中止となったことが低評価につながっている。 | 昨年度、ハローワーク職員の講話は効果的であった。来年度の職場体験の実施に向けて準備し、進路学習の充実を図る。 | C | 来年度はぜひ職場体験を実施して進路学習の充実を図ってほしい/コロナ禍での職場体験の中止はやむを得ないが、講話より現場体験が何より。来年度は実施を望む/体験は子どもたちにとって貴重。少人数だからこそできることを充実してほしい/修学旅行、川越、プール指導など行えてよかった/夏にコロナ感染者が増大し、職場体験などの実施が難しかった。 <u>それに代わる学習、講演会などの実施、タブレットを使用した学習へと広がりを見せてほしいところでもある。</u> | 昨年度・今年度は感染防止により実施できなかった職場体験を来年度実施できるように準備を進めたい。 |
| 豊かな心と健康な体の育成 | 生徒一人一人が主体的に参加できるような指導の充実 | 道徳授業等の工夫・充実また豊かな心と健康な身体をはぐくむ教育活動を推進する。 | 支援委員会・スクリーニング・地域資源等を活用して不登校の防止や暫定的な対策等を行う。また、いじめ対策委員会のもとはいじめアンケート等を活用しながら組織的にいじめの早期発見・早期解決に努める。 道徳教育・SOS教育・セーフティ教室・自転車安全教室・学級活動等を通して命の大切さに気付かせ自尊感情を高めさせる。また <u>全教育活動を通して人間関係形成力</u> を身に付けさせる。 | A | いじめアンケートにより発見(1件)。解決は迅速に行えた。不登校(1名)では関係機関と連携し、安否確認ができています。 | 登校渋りが見られる生徒には担任が親身に寄り添い、時間をかけて自尊感情や自己有用感の育成に努めてきた。命の大切さを道徳の授業や教育相談を核として進める。 | A | 小規模校だが、不登校・いじめ対策について引き続き支援をお願いしたい/生徒一人一人のことを親身になって考えている/家庭環境や登校しぶりの生徒に対しても個人に合った学習方法や学習場所、進路を考えている/子どもの気持ちに添い、社会との関わりの大切さも伝えられるようにしたい/不登校ぎみの生徒の対応ありがとうございます。家庭との日常的な連絡、風通しの良い関係をつづけてほしい/いじめ問題に迅速に取り組み、学運協でアンケート結果を公表したという事実は高い評価である。フタをすることなく全員の問題として取り上げていくということに価値がある。 | いじめアンケートの記述内容は保護者に伝えて学校と保護者が協力して解決に当たっている。市教委にもいじめの有無にかかわらず記述内容を報告する。 |
| | | | | A | 道徳「留学生が先生」では国際理解を深めた。1年生対象SOS教育、日常の教育相談を通して生徒の悩みを受け止めた。 | 特別支援教育コーディネーターを中心にスクール・カウンセラーに関わってもらい、子ども家庭支援センターと引き続き連携していく。 | A | 種々の教育により命の大切さや全教育活動で人間関係形成力を徹底的に身に付けてほしい/各家庭での生徒の様子を先生が把握している、その子に合った指導や話を聞いている/修学旅行や校外学習の服装は生徒の気持ちを考えている/人として安全や様々な人がいることを知ることは、幅広さにつながる/授業参観の時、クラスの私物の整理がよくなかった(教科書など)。整理整頓を心掛けてほしい。玄関・廊下はいつ行ってもきれいな内面の成長をソフトに手助ける、或いは交通事故防止など肉体面での健康や安全を繰り返し教えられるのは中学まで。大切なことである。 | 身近な大人にSOSを求められるようにSOS教育を進めているが、全学年を対象に学校HPに命に係わるメッセージ・相談先のリンクを用意する。 |

| | | | | | | | | | |
|---------------|------------|--|--|---|--|--|---|--|--|
| | | | 生徒会活動・学級活動・行事実行委員会・部活動を通して生徒が自ら主体的に活動して心を豊かにし体を鍛えられるよう支援して実践力を身に付けさせる。 | A | 行事は概ね実行委員会形式で生徒中心に進行しているため主体的に取り組んでいる。 | 各行事でスローガンを考えさせるなどしてさらに主体的に取り組ませる必要がある。 | A | 各活動を実行委員会形式で主体的に取り組めていて素晴らしい/部活動では短縮の活動や大会中止等大変な年だったが、現状を受け入れ、立派な成績を残した六中生は素晴らしい/体育祭やマラソン大会での朝練参加人数の多さに真面目で何事にも真剣な六中生らしさを感じる/主体的な取組となるようお願いしたい/マラソン大会時、生徒たちの動き、進行等、身近かに見られてすがすがしい/生徒会、委員会、体育祭、マラソン大会など、自分の力を信じ、最後までやり抜く、責任感、達成感を得られる行事を維持している。 | 今年度は、小中合同音楽会以外の行事が実施できたこともあり生徒の主体性を育成することができた。来年度も実施したい。 |
| 保護者・地域・七小との連携 | 信頼関係の構築と連携 | 生徒は地域行事・七小との連合行事に参加して地域社会の一員としての自覚を高めるとともに、学校は地域との連携及び小中一貫教育を推進する。 | 避難所開設訓練・黒沢川清掃等の参加により地域社会の一員としての自覚を高め実践力を身に付けさせる。 | B | 避難所開設訓練は中止、黒沢川清掃は多数の生徒が参加できた。 | 開設訓練では、今後地域の方を主体とした実提案を提案し、ホタルの育成支援と共に充実を図る。 | A | 地域避難訓練で避難所開設に携わっており、地域活動も充実して安心/校長のアップした写真で様子がうかがえる。6月の(学運協でも)教室は見学できなかった/黒沢川清掃では中学生が小学生を引っ張って活動している姿が見られた/少なくともつつある蛍の育成支援は卒業後も協力してほしい/子どもたちの活躍を見せられる場としても今後の新たな形づくりをお願いする/黒沢川清掃実行委員会にたくさんの生徒が参加してくれた/開設体験は地域の一役を担う良い体験。来年できるとよい/黒沢川清掃では、小学校、自治会と連携して作業を行い、成果を上げた。 | 来年度の避難所開設訓練の実施に向けてすでに具体案を作成した。学校・自治会・市民センターの連携を中心に進める。 |
| | | | コミュニティースクール協議会を通して学校の課題を地域と共有し、解決に向け協働する(例：標準服改定に向けて等)。 | B | 委員から標準服改定に向けて貴重な意見を頂き、方向性が見えてきた。 | 小中で連携したコミュニティースクールの取組を進める必要がある(年1回の小中合同開催等)。 | B | 小中連携のコミュニティースクールの取組は推進を願いたい/標準服改正はもっと早くに取り組むことができたよかった。今後セーフティ教室だけではなく自転車安全教室等にも参観出来たらよい/体育祭が参観できなかったのは残念だが、保護者が参観できてよかった/六中・七小の10年後、20年後を意識していただきたい。青梅市が新たに設置したコミュニティースクールをもっと充実させ、小規模校のあるべき姿を目指してほしい/小中連携した取り組みが必要/コロナ禍であるため難しいが、何かよい運営方法を探すことが大切。 | 来年度年3回実施予定のうち第2回学運協は七小との合同開催を検討する。各委員の皆さんのご協力のもと進めたい。 |
| | | | 七小との合同行事である小中合同音楽会・避難訓練(今年度は両者とも中止)・教員研修に学校が積極的に参加することで小中連携を図る。 | B | 今年度も七小との合同行事がすべて中止となったことが低評価につながっている。 | 昨年度できなかった合同教員研修は実施できたため児童・生徒への共通理解を深められた。状況を見て来年度実施する。 | B | 連携しての小中合同研修は継続実施を願う/七小との小中合同音楽会ができなかったのは残念だがやむを得ない。来年に期待する/七小、六中、教育委員会がつながりを強くもって大切な地域の学校の充実へ向けて取り組みたい/小中一貫教育の充実に向けてコミュニティースクール協議会ともども協議をすすめてほしい/上記に書いたが、コロナ禍であってもwithコロナと言われるように小規模校ならではの特色を生かし、共に行事を実行できるように考える必要がある。考えてみるべき。exオンライン配信など。 | 今年度は12月から歌唱指導が可能となり、儀式での校歌歌唱も実施している。今後感染拡大がなければ合同音楽会も実施できる見込みである |

「評価」の仕方 4段階評価 A：目標達成、B：ある程度達成、C：もう少し、D：できなかった

| | |
|---|---|
| ○4段階評価 A：目標達成、B：ある程度達成、C：もう少し、D：できなかったを基準として、校内で教職員一人一人が学校を評価したものを集計した。 上記の個人評価中のA～Dの割合をもとに次のように学校としての評価をまとめた。 A … 全体に対するA+Bの割合が90%以上かつ全体に対するAの割合が50%以上 B … 全体に対するA+Bの割合が70%以上 | C … 全体に対するA+Bの割合が70%未満(全体に対するC+Dの割合が30%超) D … 全体に対するA+Bの割合が50%未満かつ全体に対するDの割合が20%以上(全体に対するC+Dの割合が50%超かつ全体に対するDの割合が20%以上) (ただし、全体に対するA+Bの割合が70%以上であっても、全体に対するDの割合が20%以上の時は、一段階評価を下げてCとする) |
|---|---|